



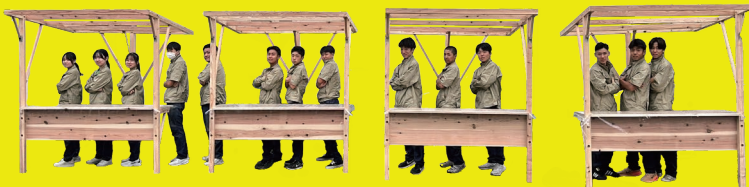
本町  
ネクスト  
HONMACHI NEXT

# HONMACHI NEXT

本町ネクスト

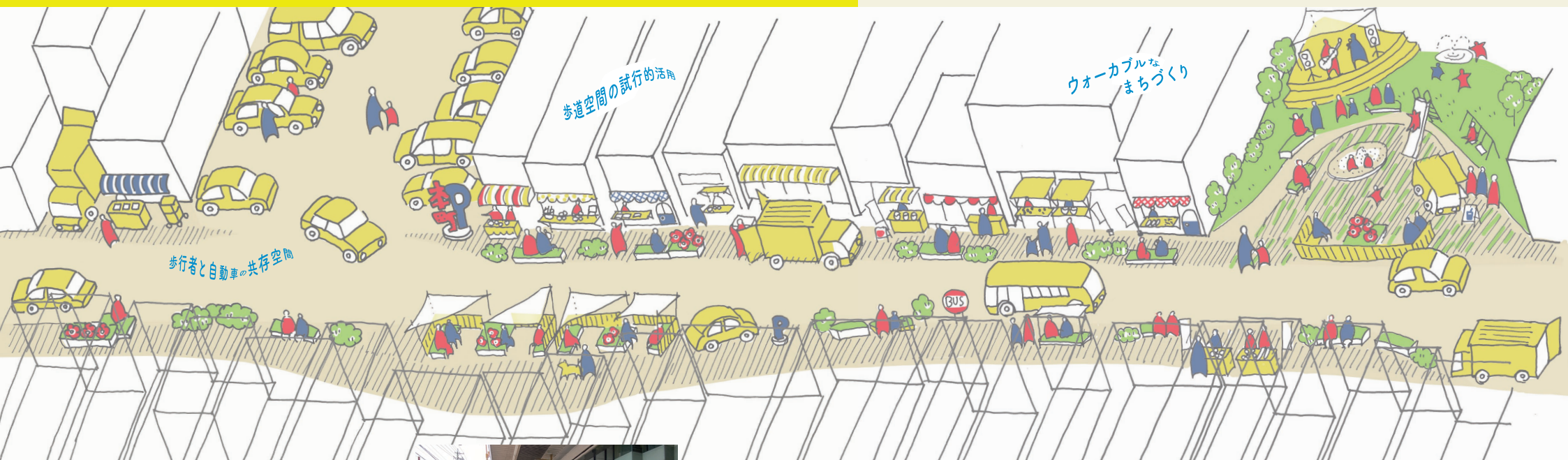
関市・本町通り  
小さなたぐさんの試みと  
これからのこと

*Street  
Challenge*





# HONMACHI NEXT



## CONTENTS

- 3 はじめに
- 4 本町通りの今を知る
- 6 取り組みの流れ
- 8 これまでの取り組み
- 18 取り組みの背景
- 21 これから



SEKI HONMACHI STREET

## 歩くのが楽しくなる

## まちを目指して

全国各地で街の通りを車中心から“人中心”の空間に再構築し、誰もが居心地よく、歩きたくなる「ウォークアブル」なまちづくりの取り組みが進められています。

関市では、2024年より、本町1丁目～8丁目の本町通り商店街を中心に、賑わいを生み出すにはどんな仕組みが必要かをまちのみんなと考え、より良くしていく取り組み・社会実験をしています。

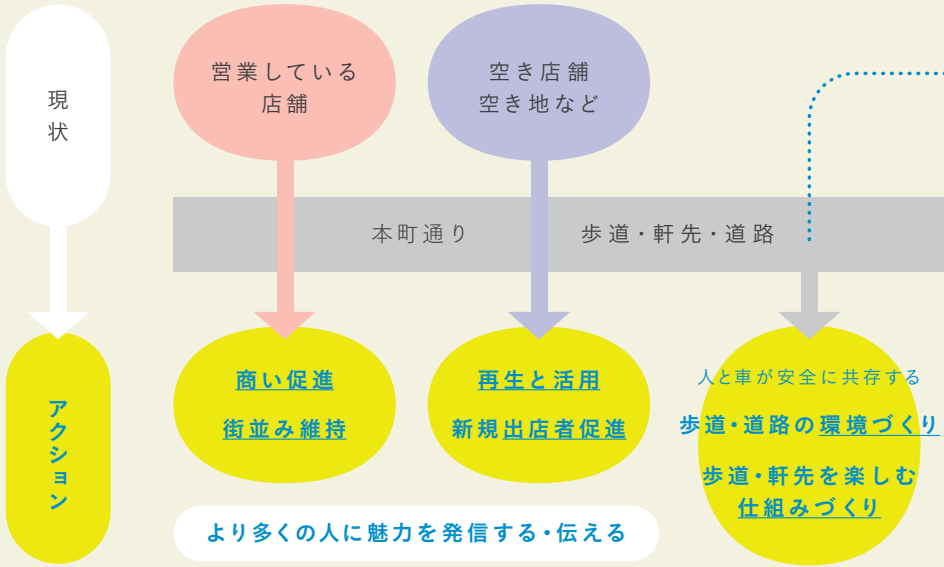
この冊子は、これまでの取り組みとこれからの本町通り、そして関市の未来につなげていくための内容をまとめたものです。



エリアによって違う、  
まちの状態

本町通り商店街を分類してみると、エリアによって建物やお店の状態はさまざまです。本町通りを活かした取り組みを考えるには、**通りの状態にあった仕組み**が必要です。

■ =本町通りに面した  
営業している店舗

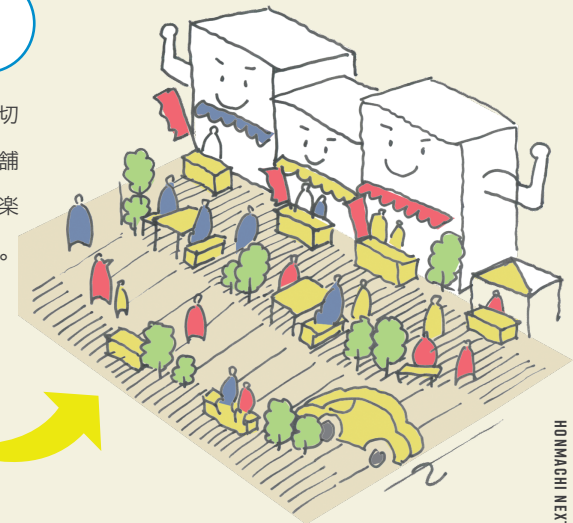


歩道や軒先、道路など  
空間の使い方で広がる可能性

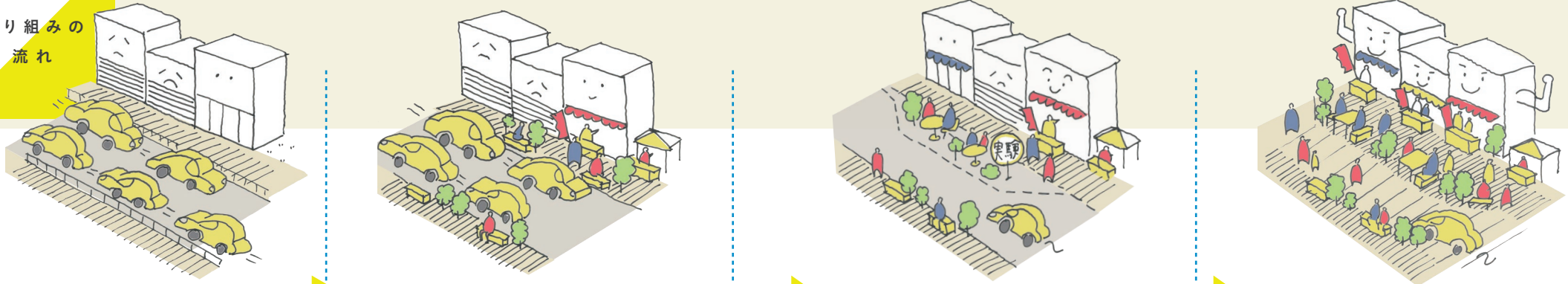
ウォーカブルなまちにするために大切なのが、歩道・軒先と車道の使い方。店舗前の歩道と軒先の使い方、歩くのが楽しくなる環境をつくることができます。

目指すのは

車と歩行者が  
共存する道路空間

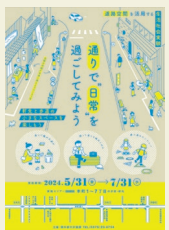


取り組みの流れ



車中心の道路空間      歩道空間を活かした道路空間      歩道+車道を活用した道路空間      車と歩行者が共存する道路空間

	STEP 1	STEP 2	STEP 3
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共空間活用に向けた意識醸成</li> <li>●歩道空間を活用する生活社会実験、検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道路空間を活用する社会実験の実施、検証</li> <li>●道路占用に関わる関係機関調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居心地がよく歩きたい環境整備</li> <li>●道路ネットワークの見直し</li> </ul>
民間住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>●沿道店舗等を活用したイベント企画運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●沿道店舗等を活用したイベントの定期開催</li> <li>●沿道店舗の積極的な利活用、リノベーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●沿道店舗の軒先等の日常的な活用</li> <li>●空き店舗のリノベーション</li> </ul>



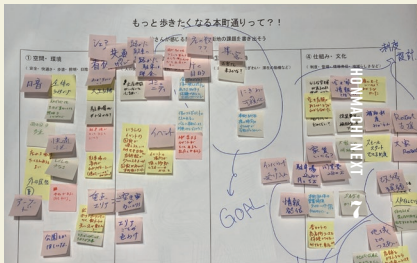
検証と実践を繰り返し、アップデートを続ける

実践の背景では、回数を重ねたウォーカブル勉強会や、ターゲット別のワークショップなどによるヒアリングを通して丁寧にステップを積み重ねてきました。検証と実践による試行錯誤の繰り返しの中で得られたリアルな声や検証データを、次の実践へ反映し改善を繰り返しています。

2024 5/12 ウォーカブル勉強会発足

2025 11/8 ワークショップ:子育て世帯の方向け  
11/11 ワークショップ:出店検討者向け

ウォーカブル勉強会  
継続中



これまでの  
取り組み



Street  
Challenge

本町ネクスト ストリートチャレンジ



HONMACHI NEXT

歩道を楽しむ仕組みづくり

空き地活用



©soichiro suizu

### 誰もが使える休憩スポット 本町ネクスト

本町  
ネクスト  
HONMACHI NEXT

関市立関商工高等学校建設工学科の先生・生徒と関市都市計画課・設計士がタッグを組み、将来的な道路空間への設置を見据え、移動可能な滞留施設を考案。地元の間伐材の東濃檜を製材し、植栽ポットとセットになったベンチの空間を設計・制作しました。



2024年  
ウッドデザイン賞受賞



### 道路空間にベンチを設置

本町ネクストのベンチを道路に移動し、仮設的なパークレットをつくりました。通過車両の速度も下がり、来街者が安全に滞在できました。



### ベンチに 日除を設置

日除タープを設置すると、ゆっくり滞在する人が増え、滞在時間がさらに伸びました。

つくて終わりではなく、使いながら少しずつ育てていけること、維持管理まで一緒に関わられることも、この取り組みの醍醐味です。

intoRAW 一級建築士 大澤 佳絵



HONMACHI NEXT

## ステップを踏んで試みる 歩道と車道の使い方

通りを楽しくするため、関市立関商工  
高等学校建設工学科の先生、生徒のみな  
さんと関市都市計画課がタッグを組ん  
で様々な演出を試みました。



### 空き地を賑わいの空間に

空間のレイアウトにも試行を凝らす  
ことで、普段は通り過ぎてしまう場  
所を「人が集まり、滞在するにぎわ  
いの拠点」へと生まれ変わりました。



### 歩道を楽しむ仕組みづくり

#### 歩道でゆっくり 過ごすためのアイテム

- 歩道に木製ベンチを設置
- 支柱に設置できる角棚
- 歩道にグリーンを設置



### 木で組み上げた木製屋台

地元棟梁と関商工高校生たちが2日間の  
公開制作で組み上げた、実験基地として  
の木製屋台。交差点の空き地にストリー  
トチャレンジのシンボルとなる拠点をつく  
りました。



### 空き店舗活用

### 歩道の使い方



### 商店街歴史ストリート上映

空き店舗のシャッターに地域住民から集めた昔の商店街の写真を投影。  
歩道のベンチに座ってシャッター上映を見る非日常空間を演出しました。

### 商店街を楽しむコンテンツ

### 子どもの遊び場

移動式遊具を目印に、子どもたち  
が自然と集まり、遊び、交流する姿  
が見られました。安心して子ども  
を遊ばせられる場所があることは、  
子育て世代にとってまちに対  
する安心感に結びつき、来街目的  
の一つになります。



### 親子連れが楽しめるコンテンツ



### 木で遊ぶ プレイスポット

まちなかの一角に丸太の輪  
切りパズルや端材の積み木  
が登場。子どもたちは夢にな  
って遊んでいました。

### 路面に減速マークを設置

歩道を安全に使うため、イベント期間中、一部区間の路面に減速マークを設置し、通行車両への影響を調査しました。



本町通りでの滞在時間が伸びるにつれ、通過車両の速度や距離感が気になるようになりました。人中心の道路空間を目指すには、ドライバー側の意識変化も大切です。車がゆっくり走行することで、歩行者の安心感に繋がります。

関市 都市計画課 佐藤 敦さん



### イベント時の駐車場案内を統一し分かりやすく

「駐車場が分かりにくい」との来場者からの声から、駐車可能な場所に統一された看板を設置し、車の誘導を行いました。スムーズな駐車により、混雑回避や歩行者の安全確保に繋がりました。



毎月 第2土曜日  
定期開催

本町で定番化した  
**本町ゴザール・惟然市**

本町1~2丁目  
6~8丁目

2024年の社会実験をきっかけに毎月開催されるようになり、今では本町通りの恒例イベントへ。店舗の中から軒先・歩道へ。ストリートライブなど、通りに賑わいを生む楽しい企画で本町通りを盛り上げています。

本町の店舗だけでなく関市全体が元気であってほしいです。そのためには新しい動きを常に考え続けていくことが大切だと思っています。



本町ゴザール主催  
和菓子処 関市虎屋 三代目店主  
古田 敦資さん



本町ゴザール(本町6・7・8丁目)

- ストリートライブ
- 本町店舗ゴザール限定メニュー販売
- マルシェコーナー
- こどもえんにち企画 など

惟然市(商工会議所前と周辺の店舗軒先)

- お弁当・野菜などの地元品の販売



### 関商工×地元企業！ 関商工販売実習

生徒たちが商品企画から接客・販売までをする販売実習も行いました。



つくって、あそぶ、木のジャングルジム

## くむんだー関商工

本町7丁目広場

釘や金物を使わず「木」と「くさび」だけで、大きな遊具や空間を生み出す体験プログラム。地元高校生が子どもたちに向け、木組の話や紙芝居形式で分かりやすく説明し、木育も兼ねた遊べる学びの場を考えました。



木に触れる体験を通じて、触覚、視覚、嗅覚、聴覚といった五感を養うことができます。木材を通じて地域を知ることにも繋げたいという想いで生徒たちと取り組みました。

関市立関商工高等学校  
建設工学科 教諭  
牛丸憲一さん



関市×美濃市 もの・ことづくりワークショップ

## やまとまちの一步

美濃市(山と梅村建設)・本町通り

地元の山での伐採から製材、商店街でのフィールドワークを通し、まちに必要なもの・ことを考え制作する2日間のワークショップ。山の現状を知り、まちをより良くするアイデアをグループ毎にディスカッションを重ねカタチにしました。成果物は商店街で実際に展示・活用されました。



美濃市地域おこし協力隊 チームtomori  
後藤里花さん 中村幸恵さん

山もまちも、私たちが目指す未来の姿にあわせて変わっていきます。自分たちで選んで切った木で、ものづくりからまちでの実践まで行うことで、山とまち、お互いの未来を考え合う機会づくりにチャレンジしました。今後は、より幅広い方々と共創できる仲間づくりを進め、その輪を本町通りからまち全体へ波及させていくことを目指しています。



ワークショップの流れ

DAY 1

山

木を伐採する

運搬

製材

まち

商店街を探索

ディスカッション

つくるものを決める

DAY 2

制作

発表

商店街で展示・使用

成果物

ヒノキの樹皮でつくった  
駐車場サイン

端材でパズル  
ぴたパズ

自分で切ってつくる  
マルタデナベシキ



街並み維持

空き店舗活用

出店者促進

歩道の使い方



mini まちの景観をそのまま活かした小さなマルシェ  
**セキ日和** miniセキ日和 本町6~7丁目

早くから本町通りのレトロな街並みの魅力に着目し、まちのそのままの魅力を活かしたマルシェで関を盛り上げる「セキ日和」。ストリートチャレンジでは、出店者と来場者の距離をより近くしたminiセキ日和を2日間開催しました。



「セキ日和」は毎年5月に開催。他にもまち歩きイベントなど関を楽しむ企画をしています。



本町通にお店が入るといこうなるというイメージをたくさん見ていただくことで、外部出店も既存店も合わさって一つの「日常の延長線上にある理想の風景」を作り出していただきたいと思います。



株式会社セキ日和 代表  
平野 祥さん

**セキ日和がきっかけで出店を決意**

**空き店舗を改装したサンドイッチ店が本町7丁目に誕生！**



セキ日和での出店経験から、新たな拠点を考えた際に自然と本町通りが候補に挙がりました。新規店舗として、本町通りを盛り上げていきたいと思っています。イベントをやらなくても人が溢れるような風景になると嬉しいです。



サンドイッチ店 Maru Sand  
村井 さやかさん



実践と検証の内容

STEP 1

2024

5/31~7/31



歩道に滞在のための  
しつらえを置く

どうしたらもっと  
活用されるだろう？

STEP 2

2024

11/14~12/1



歩道に滞在のための  
しつらえを置く



歩道や沿道を活用した  
企画と運動させる

活用の幅を広げる  
ためにはどうしたら  
いいだろう？

STEP 3

2026

3/14~22



歩道に滞在のための  
しつらえを置く



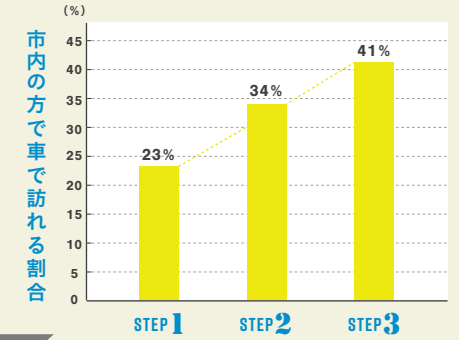
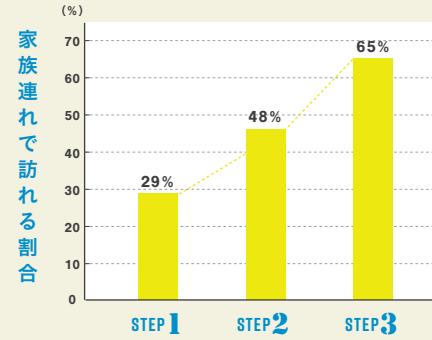
歩道や沿道を活用した  
企画と運動させる

ターゲットを決め(子育て世帯)  
体験型コンテンツを組み込む

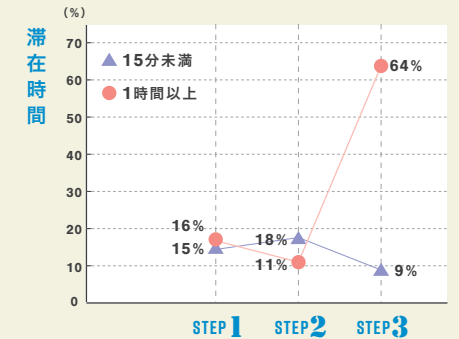
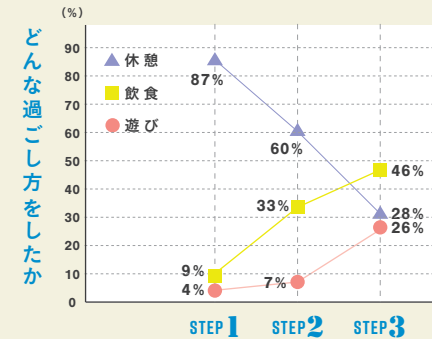


取り組みの成果

(来場者アンケートより)



GOOD!! 外からターゲット層を呼び込めるように



GOOD!! (設えに加えて) 飲食+体験で滞在時間UP!



今お店をやっている人の声



駐車場

ニーズ 広場・イベント

平時に自由に使い分けやすい駐車場が必要。イベント時に遊んだりキッチンカーが出店できる広場もあると良い。どんどんイベントをやっていくことも大事。



Support!!

出店の可能性を持つ人の声



支援

ニーズ 駐車場・通りの安全・まちのブランド力

スモールスタートがしやすい仕組みや、気軽に相談でき、不動産のマッチングをしてくれる場があると出店しやすくなる。もっと集客力のあるイベントや、通りの安全性も高まるとよい。

社会実験で本町通りに来た人の声



体験×広場

ニーズ 駐車場・イベント

遊べる広場や、体験型のコンテンツがあることで、長時間楽しめた。来場した時に分かりやすく、止めやすい駐車場があることも大事。

「まちに呼び込みたい!」子育て世帯の声



Waku Waku!!

行きたくする目的地

ニーズ 安心な遊び場・駐車場

行きたいお店、用事が特にないと行かないので、気軽にふらっと立ち寄れる子どもと安心して遊べる場があると行きやすい。

ヒアリングやアンケートを通して、さまざまな方たちのリアルな想いやニーズがより見えてきました。「ここが良かった」「もっとこうしてほしい」という一人ひとりの声が、これからの本町通りを動かす原動力になります。

歩きたくなる本町通りから、ワクワクする未来のまちへ。

この社会実験は、関市が目指す「にぎわい・つながりのある歩いて楽しいまち」の実現に向けた取り組みの一つです。

本町通りは、商店街というポテンシャルを活かし、これまでの単なる「場所」から、人々が集い、滞在したいと感じる「居場所」へと変化する可能性を秘めています。

これまで、社会実験を通して、誰もが居心地良く過ごせる“人中心”の空間づくりに取り組んできました。買い物を楽しみながら通りを楽しそうに歩く人々、ふと立ち止まって会話が生まれる風景、こんな光景が日常となるようなまちへ。

私たちは、みなさんと一緒に、そんなワクワクするまちづくりをこれからも続けていきたいと考えています。

Follow Us!



@honmachi.walkable\_seki

HONMACHI NEXT